

雌阿寒岳と湯の滝の溶岩流

雌阿寒岳は非常に活発な火山であり、阿寒-知床火山列の南西の端に位置しています。雌阿寒岳は数万年前に形成された火山で、火山性の山峰が 10 あります。数千年にわたって噴火を繰り返し、その山峰、火口、溶岩の形状と位置は変わってきました。

溶岩流はどう形成されたか

雌阿寒岳の山頂であるポンマチネシリ (1,499 m) は、7,000 年前に噴火を始めました。これらの噴火から生じた溶岩が、雌阿寒岳の西側と南側の斜面を流れ落ち、湯の滝の溶岩流を形成しました。この溶岩が冷えて固まったものには、様々な鉱物が含まれています。その 1 つがマンガンです。

地熱で温められた滝

オンネトー湯の滝を下る水の源は、数十年前に降った雨水が、雌阿寒岳の火山岩へとゆっくりしみ込んだものです。地熱で温められた水が溶岩を通り、マンガンイオンが水に溶け込みます。オンネトー湯の滝の上から温水が湧き、湯の滝溶岩流の端を流れ落ちます。滝の水の温度は 43℃まで達します。

雌阿寒岳の峰々

ポンマチネシリ火口は、火山性の蒸気を出し続けています。この蒸気は、雌阿寒岳山頂への登山道やその他阿寒摩周国立公園内の見晴らしの良いところから眺めることができます。ここから約 3km 離れたオンネトー湖西岸の展望台では、火山である雌阿寒岳の峰々を一望することができます。北側にあるいびつな形の大きな山峰が、ポンマチネシリです。南側にある円錐形の山峰は、阿寒富士です。これら 2 つの山峰は、雌阿寒岳の基礎の上に形成された、比較的新しい火山です。